

NGOトーク
理事が聞く

第49回

「まち」の人と
ヒト・コト・モノを結ぶ(特活)まちづくりスポット 事務局長代理 谷前 久美子さん &
(特活)名古屋NGOセンター 理事 北奥 順子

設立まで

北奥 企業から支援を受けて設立したとお聞きしました。どのような出会いだったのでしょうか。

谷前 大型商業施設「フレスポ飛騨高山(以下、フレスポ)」を計画していた大和ハウスグループの大和リース株式会社さんは、それまでの「テナントから賃貸料をもらって収益を上げればそれでいい」という考えから「地域にもっと愛され、必要とされる商業施設をめざしたい」という方向へ変化しつつありました。

そのため、まちの交流スペース「まちスポ飛騨高山」を設置することになり運営する団体を高山市内で探していて、担当者がムラのミライ(当時:ソムニード)に相談に来たそうです。その時に「箱だけ作っても人は来ない。何より運営する人が重要。」とアドバイスしたのですが、それに感銘を受けた大和リースさんが、ムラのミライと一緒にNPOを応援するNPOを立ち上げよう、ということで新たな法人「まちづくりスポット(以下、まちスポ)」を2012年に設立しました。

北奥 フレスポ飛騨高山とはどんな施設ですか。

谷前 元は家具工場の跡地でした。大型スーパーやユニクロ、ドラッグストア、びっくりドンキーなどがある商業施設で無料駐車場も約370台あります。高山の町並みの景観に配慮して、長屋風の落ち着いた色合いの建物にしています。そういう場所にあるので買い物をする普通の市民の方がついでにふらっと「まちスポ飛騨高山」に来てくれます。そこでは市内の団体

の方が展示やイベントをしていて、新たな出会いが生まれています。

北奥 イベントをしてもなかなか集客できないという団体が多いなか、素晴らしい相乗効果ですね。

若者の意見交流の場にも

北奥 市民団体を支援する団体というと、市役所の市民活動センターなどを想像しますが、かかわりはありますか？

谷前 高山市は観光で有名ですが人口は9万人しかなく、市役所にもNPOの担当部局はありますが専門的な相談の対応は難しいのが現状です。市から補助金などもいただいていませんが、その効果として企業と深くつながりを持つこともできます。アレルギーの子どもを持つお母さんのサークルがあるのですが、地元のスーパーでアレルギー対応の食品を探すのに悩んでいました。一方で地元密着スーパーも新店舗でアレルギー対応商品の強化を検討していました。そこで「まちスポ」が両

者をマッチングすることで、アレルギー対応食品の指導や初心者のお母さんでもわかりやすい店内のマップを作ることができました。

北奥 お互いのポテンシャルはあったのですが、「まちスポ」がかかわることでWin-Winになったわけですね。スタッフは何人いるのですか。

谷前 「まちスポ」のスタッフは7名で、うち5名が飛騨出身です。スタッフは若い世代中心で私が一番年上で平均年齢は28歳です。若いスタッフがいれば、来てくれる方も若い方が増えますね。フレスポは子育て中の方の利用も多いので「まちスポ飛騨高山」にも来やすいのだと思います。

なんとか若者がまちづくりに参加しやすい町にしようと、お酒を片手に20~30歳代限定の意見を交わす交流会を「ワールド・バー」と題して定期開催しています。地域の飲食店と連携して食事をしながら意見交換することもありますし、そこで出た意見は「まちスポ飛騨高山」の展示コーナーに掲示して市民の方に公開しています。





高山市内の大型商業施設内にある「まちづくりスポット(以下、まちスポ)」。大和リース(株)とムラのミライが協働で設立したものだとか。事務局長代行の谷前さんに設立の経緯や活動の紹介をしていただきました。

たにまえ くみこ
谷前 久美子さん



きたおく しゅんこ
北奥 順子

地域おしごと発見隊

谷前 2014年10月に市内全域の年長から小学生向けに「飛騨高山地域おしごと発見隊」というイベントを2日間行いました。1日目は本物の職場に行き子どもたちがドキドキしながら実際に仕事を体験します。飛騨牛の世話や野菜の収穫、スーパーでの食品加工、パン作りを行います。

2日目はコンベンションホールにこどものまちを作って、一般のお客さんにも来ていただきました。128名の子どもが参加して来場者は延べ1,200人です。そこでは、まず子どもたちがハローワークで仕事を見つけ、野菜を販売したりゴミ拾いをしたりネイリストになったりして仕事を体験します。働いたらこどものまち限定の通貨がもらえて、その通貨でおかしやジュースを買ったり縁日で遊んだりするわけです。

北奥 働くことの大切さがわかってとてもいいと思います。

谷前 子どもたちは最初は緊張して静かなんです。だんだん「いらっしやいませ」を

言い合って元気が出てきます。そうやって仕事を体験しながら成長していきます。親は少し離れた場所で見学していただきます。

地域の企業には無償で協力していただいています。子どもたちの将来のためだから、ひいては地域の未来のためだからと喜んで参加していただいています。子どもたちからは「今まではお菓子を食べるだけだったけど、作ったり売ったりしている人の気持ちがあった」という感想もありました。

北奥 私はフェアトレードショップの店員をしています。フェアトレードも一緒なんです。流通経路を知って相手のことを考えるのです。経路をたどることで問題が見えてくる。商品だけを見てもわからないわけです。

これからやりたいこと

北奥 今後取り組みたいことはありますか？

谷前 毎週木曜日開催しているまちそだて相談をたくさんの方に知っていただき相談を引き受けたいです。誰かのやってみてほしいお手伝いしたいのです。実は地域おしごと発見隊も2015年度以降は「まちスポ」としては開催していません。その時に協力していただいた団体の方が「ぜひ私たちの地域でもやってみてほしい」と申し出があったので、「まちスポ」はその団体に協力する形になっています。校区規模のため小規模なものです。職業、農業、福祉などを子どもたちが体験しています。

北奥 「まちスポ」はまさに地域のコーディネーターというわけですね。単にイベントをやったら終わりではなく、しっかりつなげて広げています。高山以外にも「まちスポ」があると聞きました。

谷前 高山が最初にでき、神戸(兵庫県)、稲毛(千葉県)、茅ヶ崎(神奈川県)、恵み野(北海道)、鳥栖(佐賀県)の順に全国に広がっています。他のまちスポは高山とは違った地域性、環境のためそれぞれの「まちスポ」は地域の実情に応じた手法で運営されています。

北奥 どうもありがとうございました。

(担当:丹羽)



スーパーのレジ打ちを体験

団体概要

特定非営利活動法人 まちづくりスポット

〒506-0025 岐阜県高山市天満町1-5-8
(プレスボ飛騨高山内)
開館時間: 午前10時から午後6時まで
休館日: 火曜日
TEL: 0577-62-8550
FAX: 0577-62-8580
<http://machispo.org/>
メール: info@machispo.org